

環境目標：身近な環境に関心を持ち、守ろうとする児童の育成

①. 取り組んだ活動内容を箇条書きで記入してください。（必須）

<地球温暖化防止・エネルギー>

活動内容
・教室を使わないときは冷暖房を切る、細めに電気を消すなどの節電に全校で取り組んだ。
・エコファミリーの取り組みに全校で取り組んだ。特に、夏のエコ生活は夏休みの課題の一つに加えることで、多くの児童が参加することができた。

<資源循環>

活動内容
・各教室でも「燃えるゴミ」「プラスチックゴミ」に分別し、裏紙も活用するなどゴミ問題に取り組んだ。
・給食でのストローの使用を控え、プラスチックゴミの削減に努めた。
・社会科の授業では、所沢市水道局の出前授業を受け、水資源の大切さを学び、水道に流してはいけないものについて学んだ。

<みどり・生物多様性>

活動内容
・総合的な学習の時間に「身近な環境を守ろう」という単元で学校敷地内ビオトープの調査、整備活動を行った。外来植物の駆除や定期的な観察でビオトープへの関心が高まった。さらに、学校の近くにある「おおたかの森」の散策や調査活動、木の伐採等の森林保全活動を行った。
・全校児童や園芸飼育委員会で学校農園やビオトープ周辺の除草作業を定期的に行った。
・ゴーヤを使った緑のカーテンを作った。
・学校農園を使って、農作物の収穫体験を行った。

②. ①のうち最も力を入れた取り組みについて、詳しく記述してください。(必須)

<記述欄>

力を入れている環境活動

【活動名】身近な環境を守ろう(総合的な学習の時間)

【ゼロカーボンシティ実現に向けた工夫】

4年生の総合的な学習の時間に「身近な環境を守ろう」という活動を設定し、ビオトープや森林の管理や保全の方法について学び、環境を守ることの大切さを意識づけた。

【活動内容】 ※活動の様子が分かる写真を添付してください。

1学期には、校内にあるビオトープを中心に学習を進めた。「おおたかの森トラスト」代表の足立圭子さんを指導者に招聘し、西富小のビオトープの役割とどのような植物や生き物がいるのかを教わった。その中でも、カラスムギやムラサキカタバミ等の外来植物を駆除することの大切さを学び、自分たちができる作業として定期的に外来植物を含めた除草活動に取り組んだ。夏には、アズマネザサやミントの除草を行った。



2学期からは、西富地域の自然環境を取り扱い、「おおたかの森」について学習した。オオタカやフクロウなどの多くの野生の生き物が棲んでいること、生態系ピラミッド、森林保全の方法などを一通り学習した後に、実際に森林の散策をし、自分たちの五感で感じ取る体験をした。その後、アカマツの育成に必要な「明るい森」を作るための間伐を体験し、のこぎりで木を切る、枝を落とす、丸太と枝に分ける等の活動を行った。



また、冬を迎えた西富小でも落ち葉をつかった「落ち葉ケーキ」作りを行った。まだ少し湿っている落ち葉を木枠の中に入れて押し固めることで、発酵を促し3年の時を経て堆肥とすること、その間にさまざまな生き物の棲みかになることを学んだ。

3学期には、のこぎりでは切れないような大木の伐採を体験した。安全に配慮して、木にかけたロープを4年生全員で引くことで、ねらった場所に木を倒すことができた。その大木を切り分け、無駄なく活用できるよう分けた。児童は、土の柔らかさや木のおいを感じ、2学期に自分たちが間伐した森が陽の当たる「暖かくて明るい森」になったことに気付くことができた。また、作業場所につくまでに森の一部が売却され資材置き場になっていることも目の当たりにし、森を守る活動の難しさも感じ取っていた。ビオトープやおおたかの森での活動を通して、環境問題を自分たちにも関りのある事としてとらえ、解決していこうとする意識が高まった。

